

とっとり県民活動活性化センター情報誌

てとり

シン・地域づくり

～新たな地域づくりの提案～



vol. **19**
2023.10

CONTENTS

特集

4 シン・地域づくり ～新たな地域づくりの提案～



大山町
やらいや逢坂



鳥取市
まちのわ宝木



北栄町
あつまらいや北条

県内のSDGsの取り組み

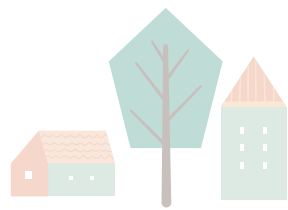
9 特定非営利活動法人 大山綿の花



9 一般社団法人 みんなの実家

高校生ing

10 青谷ごみ当番 鳥取県立青谷高等学校



人口減少・少子高齢化に加え、価値観や生き方の多様化も進み、地域の課題や悩みごとが複雑化し、どの地域も「これまで」のやり方では通用しないことが増えてきています。そんな中、自治会や地域づくり協議会、地区公民館といった既存の枠組みとは別に、住民が自ら地域に必要な取り組みを始めるという動きも見られるようになってきました。こうした地域での動きをどう捉えているのか、公立鳥取環境大学准教授・倉持裕彌さんにお話を伺いました。

シン・地域づくり ～新たな地域づくりの提案～

インタビュー

くらもち ひろみ
倉持 裕彌
博士(工学)



公立鳥取環境大学 経営学部 准教授
地域イノベーション研究センター 副センター長

近年の地域づくりの傾向について どう捉えていますか？

Q1

倉持 特に大きな変化があるように思っています。若い人や女性が目立ってきたように見えますけど、以前から取り組まれている方もおられます。ただ、そうした取り組みをいかに引き継いでいくのか、という課題を抱える団体や組織が多いのではないのでしょうか。世代交代を進めようにも、次の世代がいまいちとかなですね。そのことと関連して、地域づくりに明確な目的、その目的を達成しようと努力できる主体が求められているように見えます。ある程度型にはまった地域づくりでは、過疎化は止められなかった、産業振興は中途半端に終わった、などの限界が明らかになっているからです。



「地域経営」という言葉を見聞きする機会が増えました。
倉持先生のお考えをお聞かせください。

Q2

倉持 地域経営は新しい言葉でなかなか定義が難しいのですが、会社経営と似ているところは正確に現状を把握し

なければならぬことです。会社経営と異なるのは経営者や目的が定まっていることとです。誰が、何のために、という部分について話し合いを通して考えていかなければなりません。地域資源を使ってお金儲けをする、というイメージを持たれる方も多いと想像しますが、実際には暮らしの質をいかに守るか、例えば公共交通がなくなり、ATMもなくなり、といったような生活を脅かす要因に対する代替手段の検討や精神的サポートなどといった地味な活動こそ地域経営の出番です。



地域と自治体との関係性について、
どうお考えですか。

Q3

倉持 変わらざるを得ないと思いますよ。全国の統一的な枠組みでは通用しないことが増えてきているので、これまでとは違った関係性が求められると思います。

例えば民間事業者がいなくなった地域で、生活に必要なサービスは誰が提供するのか。除雪をイメージしてもらえればわかりやすいと思います。場合によっては役場職員さん自らサービス

提供者とならざるを得ないケースも出てくると思います。
ただし今の制度では難しいので、実験的に取り組むなどして地域に合った仕組みを模索するステージに入っていると考えています。

倉持先生からの
「新たな地域づくり提案」が
あれば教えてください。

Q4

倉持 とても難しいです。強いて言えば『考える地域づくり』でしょうか。先にも言いましたが、人口が減るため惰性では先細りです。でも、それもいいかどうかは住んでいる人の判断です。住みよい地域にするのかしないのか、いずれにせよ考え、判断し、行動する（しない）ことです。そのためには正確な現状把握や将来の想定が不可欠です。

あともう一つ。それぞれの判断の前提として、多様な人々が対話できる環境の確保は忘れずに欲しいと思います。海外の事例ですが主体的なまちづくりにかかせないのはのんびりと会話できる環境とWi-Fi、そしてアルコール（コーヒーマシナ）も可、だそうです。



今回の特集は、地域づくりにおける新たな流れに着目し

3つの団体取材しました。

どの地域も自ら考え、地域の環境や状況にあった実践を重ねられています。

少しでも皆さんの暮らす地域の参考になれば幸いです。

【特集】

シン・地域づくり

～新たな地域づくりの提案～

北栄町

あつまらいや
北条



鳥取市

まちのわ
宝木



大山町

やらいや
逢坂



大山町 やらいや逢坂

暮らしの動線にある場と、
生まれるつながり

地域の強みと、
若い力の融合

毎日のように、人が集う場所があることは、地域の財産だ。大山町のやらいや逢坂は、カフェやギャラリーを併設した「まぶや」を拠点に、さまざまな地域活動でたくさんの人を巻き込んでいく。暮らしの中にある、つながりが生まれる場。今日も賑やかな声が聞こえてくる。

やらいや逢坂の誕生は、9年前。当時から大山町が進め、現在は町内全10地域にある地域自主組織の整備がきっかけだった。「活動していく拠点があつたこと。そして、普通に暮らしていたら交わることがない人たちが交わったことが大きかったと思います」と話すのは団体の会長を務める小林このみさん。

多くの自治会がそうであるように、地域づくりの中心は年配者が多かった頃だ。「築き会」というU-Jターン者の若者が作る団体があり、彼らが空き家になっていた元病院だった建物を復活せたいと改装したのが「まぶや」。どうせなら連携しながら地域を元気にしようと、そこを拠点に活動をスタートした。

「やらいや逢坂には地元のものがある。彼らには仕事のスキルを生かしたクリエイティブな能力があった。



それぞれの強みが、ここを拠点に混ざり合った。SNSも得意な人がいて、発信力は最初からあった方だと思えます」

古民家をリノベーションした建物が醸し出す雰囲気は、寄り合い所というものではなく、若い世代にも足を向けさせた。「築き会」という外部団体との連携があったからこそその新しい発想や外への発信力を持ち、地元のつながりがあるからこそ住民たちに受け入れられた。そうして、やらいや逢坂の活動は広がりを見せていく。

「好き」「得意」が集まる場

驚いたのが、その活動範囲。カフェ運営、住民の得意なことをみんなで学ぶワークショップ、毎月一回の朝市、子ども食堂などの子育て支援活動……。全部で7つの分野に分かれるという。「生活って全方向のことじゃないですか。仕事も教育も福祉も全て繋がっている。だからそれをやっていったらと思うんです」と小林さん。

それを可能にしている要因の一つが、9年かけて築いた人のつながりや運営の体制だろう。現在は30人ほど運営委員がいて、半分は固定メンバーで、半分は各集落から毎年推薦で委員を出してもらっている。ここで大切にしていることは、誰かに無理をさせないことだという。

「関わり方は人それぞれ。それぞれの興味とか、得意なことに関わってもらえたら嬉しいんです。それと、活動に出たら出た分、時間と労力を使わせてしまうのでは続かなくなる。全体予算の中から最低限のお礼として交通費くらいはの謝金を受け取ってもらっています」

町からの補助金のほかに、カフェやイベントでの売り上げも収入源となり、参加してくれる人たちにも還元している。また、人のつながりという

う点では、やはりカフェの存在は欠かせない。事務局で働く宮下侑子さんも、このカフェがきっかけでやらいや逢坂の活動に加わった一人だ。

「週5日開いていて、みんなの生活の動線に入っている。ここに来れば誰かいるという近所の人も、単純にカフェとして利用しにくる町外の人もいます。私も料理が好きで、ここで一日店長ができるのでやらせてもらったのが最初でした。私のように、お店をやってみたい人のスモールチャレンジの場にもなっています」

実際に、町外から一日店長を利用したところから、そのまま近所におにぎり屋をオープンさせた若者も。さまざまな人を受け入れ、つながりが生まれている。



小林このみさん(左)、宮下侑子さん(右)。

地域のことを自分ごとに

9年間、これだけ濃く広く活動してきたが、だからこそ、見失いたくないものがある。

「たくさん人が集まり、賑やかなこともできるようになってきました。でも、それ自体をやることが目的になってしまっているんじゃないかと思うこともある。もちろん、楽しいことは大切で、良いこと。でも、イベントの参加者を増やしたいわけではなく、地域のことを自分ごととして考え、行動できる人が増えたら一番嬉しい。それを次の世代から出てくるようにつなげていきたいですね」

顔を出して知識や経験を還元してくれる60歳以上の世代と、30〜40代の運営者とのつながりはできている。課題を上げるとするならば地域の次世代を担う人を育てていくことだという。

「私たちは人のつながりを大事にしてきて、それがあって初めているんなことができた。それがこの9年に築いてきた財産であり、土台でもあ



■やらいや逢坂

所在地／鳥取県西伯郡大山町上市29 まぶや内
連絡先／電話：080-1946-2614 (事務局 宮下、小林)
メール：info@yairiya.jp
Webサイト／<https://yairiya.jp/>

【Webサイト】



【facebook】



【Instagram】



る。その土台の上に、私たちにもっとできることがあるんじゃないかと思えます」

人も、地域も、時の流れとともに変化する。ここに住む人の、地域の営みをどう次世代に継いでいくか。地域を思い、小林さんは現在地をしつかりと見つめる。

鳥取市 まちのわ宝木

誰かじゃなくて、自分たちで。 踏み出した小さな一歩



誰かがやってくれないかなあ。地域のことじゃなくても、そういう風に思うことは誰でもあるもの。縮小、統合、閉店……。そんな話が次から次にやってくる地元をなんとか賑やかな場所にしたい。そう思ってた立ち上がったのは子育て仲間たち。自分たちの足で踏み出した小さな一歩は、地域に新たな風を吹かせている。

このままでは 地域が寂しくなる

宝木駅が縮小されるかもしれない。2020年、そんなことが書かれた新聞記事は、宝木地域に衝撃を与えた。「高校生は通学に使い、小中学生にとっては集合場所。広い待合室はこの人にとって憩いの場だった。このままでは地域が寂しくなると思って、なんとかしたいと思ったんです」

子育て仲間5人が小さな声を挙げ、区長さんら役職のある人や有識者、保護者らに集まってもらって何ができるだろうかと意見や情報を交換する場を設けた。

「私は地元の出身で原風景として脈わっていた町の光景を今でも覚えています。宝木は、かつて気高町の中心だった町で、商店もたくさんあったんです。それがどんどん寂しくなるのが目に見えて……」「まちのわ宝木」副代表の



高橋和加さんは危機感を抱いたという。当時、宝木駅近くにあったオアシス宝木というお店も閉店。オアシス宝木は、古民家を改装した建物で、住民有志が運営。子どもたちが駄菓子を買ひ、高齢の人が集まって談笑する場所だった。「ひとまず駅前の賑わいを作りたいかったです。いろんな意見も聞いたり、誰かに相談したら動いてくれるんじゃないかと思っていただけ、『そんなことできないでしょう』と言われて、悔しい思いもしました。最初は自分たちがするなんて思わなかったけど、最後はやるしかないと思いました」

動き出した5人に、「子どもから高齢の人までが豊かに暮らせる地域にしたい」という共通の思いを抱いていた4人が加わった。世代も性別もさまざま、地域の役職も、地域づくりの経験もない自分

たちに何ができるかわからなかったが、一歩を踏み出した。

自分たちに できることから

「とにかく小さなイベントを何個かやってみよう」

まず子どもたちの居場所づくりを目指した。宝木郵便局内のスペースを借りてカフェを開いたことをきっかけに、親しまれてきた元オアシス宝木（現：古民家アトリエCure Tree）で子ども向けの工作教室を開催。あるときは自由研究を支援する会も計画した。それぞれがこんなことをやってみたいということを持ち寄り、形にした。

「お金もないし、できることは手作業。その辺で会った声をかけるなど、地域の人との関係を生かしていくしかなかったですね。イベントのチラシも500枚を全世帯に一枚一枚手渡ししていきました」

と、メンバーの野間紀代美さん。

地域の盛り上がりを感じたきっかけになったのが、「宝木でくてもマーケット」。地元の人の出店だけで始めてみたところ、折り紙教室やストーンアートなど地域の人の得意なことが集結。「人もたくさん集まって、地域全体の同窓会のようになった。車を持たない高齢

の人も徒歩で来られたと喜んでくださいました」。昨年には認知症予防など心身の健康を目指す「まちのわカフェ」をスタートした。

地域に広がる変化

こつこつと積み上げてきた活動が、地域を動かした。この春は、伝統行事の春祭り初めてマルシェを担当。「伝統や役職を重んじる行事で新しいことをさせてもらえるまでになったんだなあ」と嬉しかったですね」と高橋さん。やりたいことは、地域のいろんなことにどんどん広がっている。

「宝木には目立った観光スポットはないけど、いろんな歴史や伝統行事がある。宝木駅も明治40年創立で多くの人に愛されている。そういったことを知って、少しでも宝木



高橋 和加さん(左)、野間 紀代美さん(右)。



をめぐってゆっくりしてもらおうとまち歩きマップを作成中です。単発だった活動をつなげ、広げたい。点を線にして、面にしていきたいです」

周囲の人たちの反応も変わったし、自分たちの意識も変わった。活動を手伝ってくれる人も少しずつ増えてきた。

■まちのわ宝木

所在地／鳥取県鳥取市気高町宝木904-2

宝木地区公民館

連絡先／電話：090-8719-9270（柴田）

メール：balletschools201009@major.ocn.ne.jp

[facebook]

[Instagram]



「お客さんじゃ参加しづらい、何か自分ができることで役に立ちたいと声をかけてもらうようになりまして。高齢の人にガイド役になってもらい、自分たちも知らない昔の話を教えてもらったこともあります。ああ、地域ってみんながやれることを持ち寄ればいいんだと分かりました」と高橋さん。野間さんも続ける。

「地域の役って『やらないといけないこと』というイメージがあったけど、好きなことをやりたいからやるようになると変わりますね。みんなと一緒にまちを元気にするという同じ目的でやると、一体感が生まれるんだなあと。それは大きな発見でした」

何も大きな一歩でなくてもいい。無理をせず、やりたいことを楽しくやる。その一歩が集まれば、地域の歩みはここまで続いていく。

北条



宝木

逢坂



北栄町 あつまらいや北条



寄り合って、 立場も超えて、楽しんで。

日本は人口減少時代に入り、市町村の統合や集約や合併という枠組みの変化はこれからの増えるだろう。これまでのやり方では、地域の運営が立ち行かない場面も多くなるかもしれない。さて、そんな時にどうするか。自分たちで自分たちの地域をよくしていく。その思いが、「あつまらいや！」と、声を挙げさせた。

声をあげた町民たち

「昔から、北条という地域は全面に出て主張をし、声を出す人がそんなに多くないかもしれない。おとなしいという。しかし、地域の状況の変化に危機感を覚え、いよいよ自分たちの住んでいる地域のことを考え、動き出した人が多いんだと思います」

あつまらいや北条で作ったお揃いのポロシャツを着た副田幸男会長は言う。

大栄町と北条町が合併してできた北栄町。分庁舎方式から2017年7月に庁舎を統合し、本課機能が本庁舎に集約されるとともに、旧北条町で開かれていたさまざまなイベントなどもなくなっていったという。

「北条砂丘クロスコンサート」大会、砂丘祭りの花火打ち上げ、米まつり……。いろんな事情もあって場所が変わった。



たり、なくなったり。気づいた時には北条には何もないなと。これじゃ北条が寂れてしまふ、そこなんですよ、きっかけは」

町が主体となって、北条地域の振興のために意見交換をする機会を設定し、住民有志が月に1回集まってはそれぞれの想いや考えを出し合い、2018年5月にあつまらいや北条を設立した。自分たちの住んでいる地域のことを、自分たちでなんとかしよう。ついに、声を挙げた。

立場を超えて、集まろう

まず、やってみたのが「北条ふるさとまつり」の開催。人口約7,500人の北条地域で、千人を超える来場者を数えて大盛況となった。

「交流の場面や場所がなくなっていたので、人が集まることをしたかったんです。元々はなかったまつりで、全部手作り。出店する店も北条の人たちだけでやってみました。そうしたらたくさんの方が来てくれたんです」

そう話すのは、北条町北条支所長の大庭博さん。仕事としてだけでなく、生まれ育った町を思う気持ちが活動に力を入れさせる。

「まつりの運営資金を集めようと、メンバーたちが手分けをして地元企業を回って寄付を募った。これによって舞台で演じてくれた子どもたちや団体に謝礼を出すことができました。これは続けていかないといけないと感じました」と、副田さん。

コロナ禍でできていなかったが、昨年復活し、賑わいが戻ったという。

あつまらいやの活動の中心となっていてのが茶臼山だ。自分たちの活動の中心となる場所を作りたいということことで、もともとテニスコートだった北条多目的広場を「町民いこいの芝生広場」として



整備。子どもたちから大人まで芝植えをみんなで行った。周りには保育園や小学校の記念植樹をしたり、少しずつ自分たちの手で作りあげてきた。綺麗な桜並木があり、ここで春には桜まつりで賑わいが生まれる。

地域の動きが始めると、立場や枠組みを超えた動きもどんどん増えてきた。ある時には、北条小学校の校長から「北条のぶどうを学校に植えて子どもたちに育てる体験をさせられないか」と相談を受けた。

「ハウスを作るのにもお金がかかるけど、資材を作っている人たちが寄付すると言ってくれ、今度は生産者がぶどうを育てる指導に来てくれた。こうやって輪って繋がっていくんだなあ。そうやって広がっていくのが嬉しい」

地域を愛する人を増やしたい

「何かをしていたら関心を持ってもらえる。みんな思っているけどやらなかっただけで、活動の中心となる存在がこれまでなかったからかもしれない。よかったですよ、こういう団体が生まれて」

まちづくりをしているのは行政で、つい受け身になりがち。でも、自分たちで動き出してみたいじゃないと分かった、と二人は言う。

外食ができる店が少ないことから女性メンバーが中心となって「あつまらいや食堂」を開いてみたり、グラウンドゴルフを高齢者と子どもたちが一緒にやる企画を考えたり、田植えを一緒にしたり。高齢者世代、役場の人、学校の先生、子どもたち、それぞれが集まってくる機会が増え、見えてきた景色がある。

「営利目的じゃないから、私たちは。役場がやることではなく、子どもたちに地域を愛してもらうきっかけになること、そして自分たちが交流できることをしていきたいです。これから登山道も整備して、頂上にも上がれるようにして、もっと多くの人にここを知ってもらいたいと思います」

暇さえあれば、茶臼山の芝刈りや水やりを精を出すという副田さんに、よく仕事帰り

に芝の様子を見に来るという大庭さん。「好きなことをしていたら、苦労とは感じないでしょう？」二人は、嬉しそうに芝が広がる茶臼山の広場を見渡した。

■あつまらいや北条

所在地／鳥取県東伯郡北条町土下121番地1
事務局 北条町役場北条支所
連絡先／電話：0858-36-3111
メール：soumu@e-hokuei.net

[facebook]

[Instagram]



大庭博さん(左)、副田幸男さん(右)。



SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)
2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標
169のターゲットで構成

当センターは、SDGsに取り組む個人、団体等の情報交換・発信の場となる、
「とっとりSDGsプラットフォーム」の事務局として、
SDGsを推進しています。
今回はプラットフォームのメンバーのなかから、
2団体をご紹介します。

会員随時
募集中!



<https://sdgsnwt.jimdofree.com/>



とっとりSDGsプラットフォーム

TOTTORI SDGs PLATFORM

一般社団法人みんなの実家 鳥取市



私たちは鳥取市内の古民家で地域食堂(こども食堂)・フリースクール・学習塾・教室活動・相談支援活動を行っています。赤ちゃんから高齢の方まで、誰でも気軽に立ち寄れてホッと一息つける、みんなの「実家」のような地域の居場所づくりを目的としています。

地域食堂(こども食堂)は週3回開催しており、18歳以下は無料です。子どもだけでなく誰でも利用できます。

フリースクールは、不登校の児童生徒を対象とし、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりと、元教員・学習塾講師による本格的な学習支援や相談を行っています。「家の外に出る」ことが目標だった子どもたちの中には、様々な活動を通して自分のペースをつかみ、学習意欲が出てきている子もいます。

学習塾は夕方に開催しており、静かな空間で落ち着いて学習に取り組むことができます。

教室活動では、仕事を引退した方や学生の方に自分の趣味や特技を生かしてボランティアスタッフとして関わっていただいております、やりがいや活躍の場となっています。



居場所づくりにとって一番大切なことは「続けること」だと考えています。SDGsの目標3「すべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」をめざし、これから先何十年も「みんなの実家」の活動を継続して、子どもたちに人との関わりの温かさを伝えていきたいと考えています。

公式HP

■所在地/鳥取県鳥取市南吉方3丁目215番地
■連絡先/電話: 0857-32-8482
メール: minna.no.jikka.2022@gmail.com
■H P/ <http://minna-no-jikka.jp/>



特定非営利活動法人大山綿の花 米子市

私たちNPO法人大山綿の花は、古い着物の生地を再利用して様々な洋服や小物を制作しています。

現在の具体的な活動内容は、当法人で制作した品を地域のバザーで販売したり、少人数の裁縫教室を開催して皆様に縫い物の技術をお伝えしたり、制作した布マスクを保育園に寄贈したりしています。

洋服や小物など、布を使って作られた製品は様々な種類があります。それらを自分で縫って作るというのは、既製品を買うのとはまた違った魅力があります。

手間をかけて作ることでも物を大切に作る心が生まれる、とはよく言われることですが、それだけではなく、自分で縫えば、自分の思った通りに作れるので、結果として長く使いたいと思える品にすることもできるのです。

さらに、着物生地をリメイクすることも活動の一つとしています。使われなくなった着物の美しい柄を再利用して新たな品を作ることに、作る楽しさも、資源を大切にする行動も含まれています。

今後の活動としては、前述の内容の他にも様々な計画もしています。

中でも、「交流の場」の創出に力を入れています。自身が制作した作品を持ち寄っておしゃべりしたり、学び合う機会を設けるなど、人生をより豊かにするような「交流の場」づくりを目指して取り組んでいます。



公式HP

■所在地/鳥取県米子市糺町2丁目4 4
■連絡先/電話: 090-3377-2464 (荒田)
メール: technopolis_2005@yahoo.co.jp
■H P/ <https://technopolis2005.wixsite.com/daisenwatanohana>



現在進行形の
高校生の動きを
紹介する

高校生ing

青谷 鳥取県立 青谷高等学校 ごみ当番

今回は日本財団の「海と日本プロジェクト」の一環である「うみぼす甲子園」にエントリーし予選を通過した「青谷ごみ当番」の皆さんの取り組みを紹介します。



こ たけ はな み
1年 小竹 花実さん



やま もと ゆず か
1年 山本 柚花さん



た なか たつ や
1年 田中 龍哉さん



こんなイベントを開催しました

Q この取り組みをはじめたきっかけを教えてください。



小竹さん

青谷高校の1年生全員でうみぼす甲子園にエントリーしたのがきっかけです。その中で予選を通過した全国の14チームに選ばれたことで引き続き活動を行っています。



山本さん

私は当初別のチームに所属していました。小竹さんに誘われたことをきっかけにこのグループに参加しました。海にごみがたくさんあることで苦しんでいる生き物がいることを知ってから、こうした環境問題に関心を持っていました。



田中さん

自分はずっとこのチームに所属していました。予選を通過できて少し驚いています。



Q これまでどのような活動をしてきましたか。



8 月には白兎海岸、賀露海岸、鳥取砂丘、岩戸海岸を巡って、調査をしながらごみ拾い活動をしました。



海岸で調査をしていると、バーベキューをやったあとのごみやテントの骨組みなどが捨ててありました。また、海岸だけでなく海の中にもごみがありました。



色々な海岸にごみがたくさんありました。片付けはきちんとしてほしいです。



その他にも鳥取環境大学でお話を伺ったり、ごみ処理施設のリンピアいなばに行ってどのようにごみが処理されているのか見学しました。



Q 活動を通して何か気づきはありましたか。



思っていたより捨てられているごみが多かったように思います。



鳥取砂丘は景色も良く、多くの観光客の方も来て賑わっていますが、少し海岸沿いを歩いていると多くのごみが流れついていて驚きました。



ごみが多く捨てられていることを知ったので、今後も活動をとおしてごみ問題に関する啓発をしていきたいです。



Q 今後の活動の予定について教えてください。



今後は拾ったごみを展示するイベントなどを企画しています。どこにどんなごみが捨てられていたのかを知ってもらうためです。これは地域の方と一緒に実施する予定です。また、10 月末まで活動を行って最終的にはそれまでの活動の成果などをまとめます。それを基に 11 月には東京でうみぼす甲子園の決勝プレゼン大会に参加し取組みを発表していきます。

うみぼす
甲子園HP



編集後記

この夏は、4年ぶりに多くの地域で夏まつりが開催された。自治会でも納涼祭が復活し、地域の中で、久しぶりに多くの人が集まり語らう姿があった。台風により緊急時の声掛けの重要性も再認識したこの夏、身近なところで人と人が顔を合わせる機会があり、日頃の声掛けや見守りができる地域でありたい。

(小林 綾子)



てとり「てとり」はとっとり県民活動活性化センターの愛称です。

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：毛利 葉

編集人：小林 綾子

取材・編集：藤田 和俊（合同会社僕ら）、寺坂 純子、椿 善裕、池淵 菜美、谷 祐基、世瀬 あけみ、上山 梓

写真：藤田 和俊（合同会社僕ら）

写真提供：鳥取県立青谷高等学校「青谷ゴミ当番」、特定非営利活動法人 大山綿の花、一般社団法人 みんなの実家

協力：特定非営利活動法人 大山綿の花、一般社団法人 みんなの実家

デザイン：山本印刷株式会社



読者アンケートにご協力ください。



「てとり」バックナンバーはこちらから。

2023年10月10日発行(第19号)

お問合せ／公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <http://tottori-katsu.net/>
〒682-0023 鳥取県倉吉市山根557-1 パープルタウン2階
TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail info@tottori-katsu.net